みずた かずた
水田 量太
製薬会社 勤務

11
-東部-

応募のきっかけは？

着任前も、緑が多く住みやすい街にいましたが、夫婦共に地元から遠く、年に2回しか戻れないことに、もどかしさを感じていました。「いつかは地元に帰ろう」と思いながらも、数年が過ぎ、情報収集は続けながら、実現できない状況でした。

2016年、大阪で開催された移住フェアに参加し、地元の近くで就農できる場所や農業に関連する仕事はないかと探していたところ、40年以上前から環境保全型農業に取り組まれている平生町が協力隊を募集していて、特産品開発業務に携われることを知り、興味を持ちました。

2017年には次男が生まれ、待機児童で保育園に入れず、また、アトピー性皮膚炎を発症したこともきっかけとなり、移住を決意。その際、平生町の協力隊募集のことを思い出し、応募しました。

隊員時代の思い出を教えてください

着任1年目は隊員として何をすれば良いのかが分からない状況でした。ミッションはありましたが、町役場の方や農家の皆さんとの意思疎通が難しく、ニーズが分からず苦労しました。根気良く農家の皆さんのもとへ足を運び、直接お話を聞かせていただくなどして、相互理解を深める努力を続けました。

大変だったことは？

協力的な方がいらっしゃる一方で、何をやっても非難を受けることも経験しました。現実的な話をすると、最初の1～2年は金銭面でも大変でした。移住前に想定していたよりも多くの支出もありました。任期中の3年間を有効に使い、起業することを考えていましたが、協力隊の活動をしながらの準備は難しく、役場に相談をして時間をセーブしていただいたこともありました。

▶隊員時代：カリフローレの栽培

▶隊員時代：イベント会場

現在、そしてこれからについて

平日は会社員として働き、週末は農業をしています。協力隊の時から作り始めたイタリア野菜の栽培や小学校の児童たちとのカリフローレの栽培は、現在も続けています。平生町の未来を創る子どもたちは宝ですから、これからも子どもたちとイタリア野菜を栽培し、収穫体験をしてもらう活動は続けていきたいと思っています。

未来の夢というより、今の生活をどのように継続していくかを意識し続けたいと思っています。「平生町で生きていく」と決めたので、ここでの子どもたちとの日々の生活の一つ一つの出来事を丁寧に、大切に過ごしたいと心から思っています。

協力隊を目指す人や後輩に伝えたいこと

心がワクワクすることがあったら、それをやってみることが一番大切です。地域振興や地域の課題に取り組むことは重要ですが、そこに子どもたちとの活動を加えていくと、より豊かな時間を過ごせると思います。子どもたちは地域の宝ですから。

みずた かずた
水田 量太さん

協力隊として

| 着 任 地 | 平生町
| 活動期間 | 2018年2月～2021年1月
| 活動内容 | 地元農産物を使った特産品・メニュー開発

現在の仕事

製薬会社 勤務

自宅の畑

水田さんのあゆみ

- 2016. 大阪の移住フェア参加
- 2017. 次男誕生
- 2018.02 協力隊着任
- 2019.03 イタリア野菜の栽培開始
- 2020.09 小学校でカリフローレの栽培開始
- 2021.01 協力隊卒業